

### 目的・目標

- 交流及び共同学習の「共同学習の側面」を発展させ、すべての児童生徒が共に学び合う環境を整備する。
- 柔軟な教育課程と指導体制を構築し、インクルーシブな学校運営を実現する。

### 学校運営連携校

宮崎県立小林こすもす支援学校(知肢併置)  
 小林市立東方小学校  
 小林市立東方中学校  
 宮崎県立小林高等学校

併設型

### カリキュラム・マネージャー

元特別支援学校指導教諭(音楽)  
 特別支援教育の実践と研究に豊富な経験を持つ

## 取組概要

- ・既存の交流のブラッシュアップ
- ・学校運営連携協議会を中心とした学校運営のPDCAサイクルの確立に向けた取組
- ・共同学習の側面の可視化に向けた授業検証
- ・検証結果を踏まえ、各校が主体的に授業を実施するための協議
- ・三校企画会(教務主任の教育課程検討会議)を通じた教育課程の検討



①交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方の検討

○高校・高等部の共同学習（音楽）

- ・歌唱・身体表現、器楽アンサンブル、グループごとにセッション
- ・障がいの有無を超えた学び合いの場の実現

アンケート

高校生「障がいの有無に関係なく学び合えた」  
 支援学校生徒「高校生と一緒に演奏できて嬉しかった」



検証授業（高校）

○小学校・小学部の共同学習（音楽）

- ・児童が主体的に楽器を選び、創作活動を実施
- ・児童同士の教え合いが促進される場面が多数

アンケート

教員「児童同士の教え合いが見られた」  
 教員「楽器選択の自由度が高く、児童が意欲的に取り組んでいた」



検証授業（小学校）

- ・検証授業後の事後研修会の実施

②現行の教員配置にこだわらない専門性を高めた授業実施のための体制構築の在り方

- ・検証授業におけるチームティーチング
- ・パラスポーツ交流の事前学習（特別支援学校の教員が担当）
- ・高等部の生活単元学習における高校教員の授業試行
- ・学校運営連携協議会や三校合同教育課程編成会議における協議



学校運営連携協議会



三校合同教育課程編成会議



パラスポーツ交流

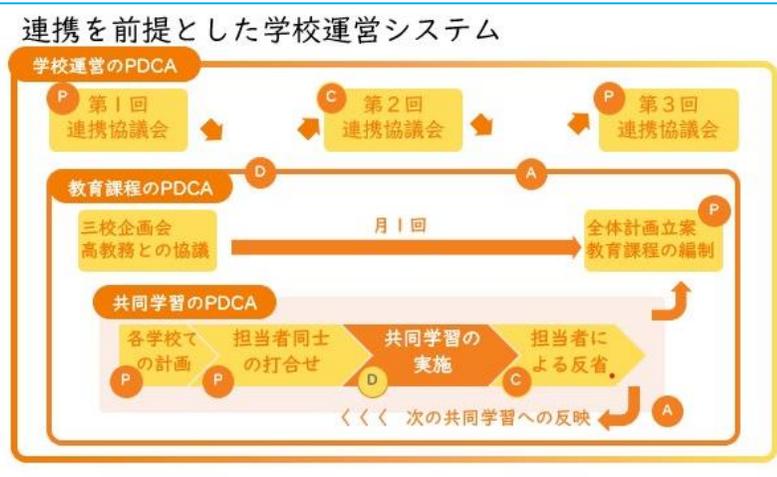
本事業の成果

- 「共同学習の側面」を可視化し、それらをもとに「共同学習」の在り方を共有できた。
- 検証授業後の研修会を通じて、他教科展開の可能性を確認することができた。
- 検証授業では、障がいの有無を超えた主体的な学び合いが見られた。
- 連携協議会を開催し、今後のインクルーシブな学校運営について方向性を確認した。
- 三校企画会を中心に交流及び共同学習を発展させた令和7年度の教育課程が編成された。



課題と今後の展望

- 他教科への展開と事前準備の充実
- PDCAサイクルを活用し、計画的な振り返りを実施
- 情報共有をさらに進め、4校間の進捗差を調整していく。
- ICT活用による連携強化と情報共有の効率化
- 令和8年度の教育課程を見据えた授業設計の推進
- 本事業終了後の令和9年度のスタートに向けた、環境の整備



図：学校運営連携協議会で提案した「連携を前提とした学校運営システム」